

令和5年度の主な事業報告

社会福祉法人 容風会

社会福祉事業

1. <法人全体>

【法人理念】「感動を提供し、感情にあふれる時間と環境づくり」

【運営方針】「個人の意思の尊重」「自宅（在宅）生活の継続性の尊重」「豊かな人生の創造」

【2023 テーマ】 『NEXT 15 ～おきならしさの追求3～』

～ 前へ、挑む。～

挑戦ではなく、挑む。チャレンジではなく、やり遂げる。

怖いのは、挑まないこと。失敗を恐れず、結果に集中しよう。

令和5年度は『NEXT15～おきならしさの追求3～前へ、挑む。』～挑戦ではなく、挑む。チャレンジではなく、やり遂げる。怖いのは挑まないこと。失敗を恐れるな、結果に集中しよう～をテーマに掲げ、すべての利用者様が人間的で豊かな時間を過ごし、上質で快適な暮らしを送っていただくため、法人が最も時間を割き、目下の急務として位置付けている「自立支援介護」の学びの年・2年目でした。

一年目は、研修と実践、振り返りをPDCAサイクルで繰り返す「おきなof杜の自立支援介護」の学びをスタートさせた年となり、二年目となる令和5年度は、その学びを深め、マイスターと呼ばれる社内検定を行い、その名のおり自立支援介護のスペシャリストとして、現場全体を率いていけるスタッフの育成をおこないました。スタッフひとりひとりがより成長することでサービスの質の向上につなげていくことに取り組んでいます。

三年目となる令和6年度は、これまでの取り組みを具現化させるべく、住民様や利用者様それぞれが願う夢や希望の実現に向け、学びの基本編を応用編へと進化させ、全職員が確実に実践できるよう研修と実践を繰り返し、“全員スペシャリスト”を目指します。

新型コロナウイルスについては、感染症の位置づけが令和5年5月に2類から5類へ移行したこともあり、予防対策を講じながらも日常生活を取り戻せるよう、面会や行事を再開させました。事前予約による面会や、住民様やご家族様等に限定した秋祭りなど、まだまだ全面解禁には至りませんでした。すべては住民様・利用者様の「笑顔のため」にどのように実行していけばよいかを常に考え、コロナを理由に後退することなく前へ進んだ一年となりました。

地域交流も再開させ、地元サッカーチーム・ギラヴァンツ北九州と共同開催で地域の市民センターを会場として「シニア健康教室」を実施。また介護予防教室「通所サービスC」も再開しました。

(改修や設備機器、ICT 機器等の導入、コンサルタント導入など)

1. 特養「特殊浴槽」の入れ替え 7,351,300 円／令和 6 年 1 月入替

開設より 18 年が経過し、特殊浴槽が老朽化。2～3 年前より入替を検討していました。しかしながら、入替費用は高額であることから、なんとか補助金を活用できないか探したところ、公益財団法人 JKA（競輪とオートレース）の機械振興補助事業に応募し、助成の採択をいただくことができました。機器が新しく、最新の機能になったことで、これまでの入浴介助に 2 名のスタッフが必要であったところを 1 名での介助が可能となるなど、業務改善や労働環境の整備も叶えることができました。（公益財団法人 JKA 補助事業 3/4 助成額 5,472,225 円）

2. ショートステイ「リフト付きシャワーキャリー」1 台導入 1,687,075 円／令和 6 年 3 月

ショートステイの個浴にリフト付きシャワーキャリーを導入しました。2・3 丁目（2020 年）、4・5 丁目（2021 年）、7・8 丁目（2018 年）に続き 1 丁目にも導入したことで、すべての個浴にリフト付きシャワーキャリーが整備されました。ノーリフティングケアの取り組みの一貫として、個浴でも職員一人で入浴の対応ができるようになり、入浴時間の効率化も図れ、何より住民様に安心して快適な入浴を提供できるようになりました。（福岡県介護ロボット導入支援事業補助金 助成額 1,000,000 円）

3. 自立支援介護 コンサルタント導入 4,620,000 円／年（3 ヶ年計画の 2 年目）

法人全体で自立支援介護に取り組んでいます。「水分ケア」「栄養ケア」「運動ケア」「排便ケア」の 4 つのケアを基本に取り組むことで、利用者の体調が整い、体力や活力を取り戻すことができ、良い効果を得られるようになっていきます。導入にあたって、コンサルタントに依頼し、3 年間、教育支援をしていただきます。月に 2 回、座学と事例検討会を重ね、自立支援介護分野のトップを走りたいと思います。

2. <経営管理本部>

令和 5 年度は「健康も仕事も結果にコミット。接客のプロ、事務のプロとして誇りを持ちます」を目指し、業務の効率化、おもてなし、経費削減、社内 DX などに取り組みました。また、「健康」をキーワードに、職員が心身ともに健康でいることが、質の良い仕事へつながると考え、毎月 2 回、外部講師を招き「プチダイエット健康教室」を開催しました。食事・水分摂取と適度な運動の大切さを学び、毎回多くの職員が参加し、楽しみながらダイエットを成功させました。経営面では、収入面は前年度からほぼ横ばい。人件費が増加したものの事業・事務費は経費削減をおこなうことが出来ました。特に高熱費に関しては、電力のデマンド監視装置を導入したことで、前年度比で約 500 万円を削減することができました。また、退職積立を 300 万円確保するなど、資産形成にも着手することができました。

(職員在籍数) ※令和 6 年 3 月末

事業所名	正職員	契約職員	合計
1. 法人本部	1		1
2. 特別養護老人ホーム	48	16	64
3. ショートステイ	7	1	8
4. デイサービス元気塾	12	1	13
5. デイサービス文化村	12	2	14
6. デイサービス OKINAdARUKU	8	2	10
7. 居宅	4		4
合計	92	22	114

3. <<特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）>>

令和5年度は「自立支援介護2年目。健康を応援する気持ちを大切に、失敗を恐れず前へ挑もう」をスローガンに取り組みました。

年間を通じて稼働率(対満床)は94.8%(前年度96.6%)、収入目標達成率100.5%(前年度101.1%)。前年度から引き続き自立支援介護、ノーリフティングケア、先進的介護をケアの3本柱としました。最も時間を割いて取り組んだ「自立支援介護」においては、19件の事例に取り組み、目指す取り組みとして「食べたかったお寿司を食べることができた」「自宅に帰れた、自宅で一泊することができた」など、住民様それぞれの願いを多職種連携して取り組み、成果へとつなげていきました。一方で、長期入院による空床、医療ニーズの高さから施設へ戻れず退居となるケースが増え、結果として稼働率の低下となってしまいました。

令和6年度は、嘱託医の変更と医師2名体制への医療連携強化に取り組み、住民様の健康管理を強化し、入院される方を減らす取り組みをおこなっていきます。

4. <<ショートステイ（短期入所生活介護）>>

令和5年度は、「誰もが身体の健康、心の健康を目指して！」をスローガンに取り組みました。

年間を通じて稼働率(対満床)は95%(前年度92%)、収入目標達成率100.6%(前年度101.2%)。居心地の良いショートステイを目指し、外出行事や作品づくり等の実施数も増やすなど工夫を重ね、「何度も行きたくなる」「リピート戦略」に取り組みました。

また、ショートステイでも自立支援介護に取り組んでおり、ご家族様やケアマネジャーと連携を取りながら、利用者様それぞれの願いを知り、叶えることができるように取り組みました。

5. <<デイサービス（通所介護）>>

○いきがい元気塾では、令和5年度「PulsUltra～もっと先へ、さらなる前進～私たちはできる！そしてできるが楽しめる」をスローガンに取り組みました。

年間を通じて稼働率は(対定員)77.9%(前年度83.9)、収入目標達成率96%(前年度102.8%)。元気塾では、4月と8月に新型コロナウイルス感染が拡大し、利用控えなどにより稼働率が低下し、また、長期入院者や入所になったことによる中止者数も多く、稼働率の回復に時間を要しました。年度末の2～3月によりやく目標に達することができ、スタッフのモチベーションも同時に上昇。自立支援介護、おもてなし、認知症予防・ユマニチュード、業務改善などに前進して取り組めるようになりました。令和6年度は、スタッフの入れ替わり等もあり、新体制で更なる高みを目指しています。

○やりがい文化村では、令和5年度「新時代、もっと上へ ッ ココ（個々、心）の力。」をスローガンに取り組みました。

年間を通じて稼働率は(対定員)87%(前年度87%)、収入目標達成率104.88%(前年度104.1%)と昨年と変わらず好調をキープしています。

大人のカルチャーセンターをコンセプトに開設され12年が経ちました。相変わらず人気の高いデイサービスで常に空きが無い、と言われていたますが、その好評価に甘んじることなく、日々スタッフは高みを目指し、チーム一丸となって自立支援介護、おもてなし、地域からの信頼獲得に向け取り組んでいます。

○OKINA de ARUKU(オキナデアルク)では、令和5年度「BRUSH UP ARUKU」をスローガンに取り組みました。

年間を通じて稼働率は(対定員)81.68%(前年度81%)、収入目標達成率98.85%(前年度113.1%)。開設して7年目を迎えたARUKUデイサービスは、午前・午後と1日2部制でおこなっており、年間を通じてメリハリのある運動とその成果を感じていただくために、学校の学期制のような区切りを導入しました。始業式や終業式、成績表や表彰状などを取り入れ、ワクワクするような仕組みを導入し、大変喜ばれました。

自立支援介護の取り組みにも挑戦し、運動だけでなく排泄や食事、認知症も絡めて事例を検討しました。

また、全員で発信力を強化したところARUKU独自のインスタグラムのフォロワーも350人に

増やすことができました。

公益事業

1. 《地域介護支援センター(居宅介護支援)》

令和5年度は「利用者・家族の望む在宅介護のサステナビリティを実現していきます！」をスローガンに取り組みました。

まずは重要となる職員の体制として、ケアマネジャー4名体制で一年を送ることができたことは大きかったです。収入面では、4名在籍することで得られる事業所加算を取得できたことで、年間約500万円増やすことができました。

地域への相談窓口としての役割も十分に発揮し、地元サッカーチームと共同開催した「シニア健康教室」では、法人のPRや相談窓口の受け付けなど積極的におこないました。

収益事業

1. 《不動産賃貸業》

当施設が高台にあり、携帯電話会社のアンテナの設置に屋上の一部を賃貸した。周辺地域の電波の改善にも協力でき、使用していない部分の不動産を賃貸し、わずかながら収益を得る事業となっています。

自立支援介護とは、介護を必要としている高齢者がその方らしく生活できるように、介護サービス事業所が支援を行うことです。平成30年度の介護報酬改定では、「自立支援・重症化防止」を軸に介護報酬の見直しが行われ、従来の「お世話をする介護」から「自立を促進する介護」という考え方に重きを置かれるようになりました。中でも重要視されているのが、介護の三大原則である「生活の継続性」「自己決定の原則」「残存能力の活用」です。この三大原則をより重視した個別性のある支援が大切といえます。